

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900087		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	グループホームふぁみりー那珂		
所在地	福岡市博多区那珂3丁目14番6号		
自己評価作成日	令和4年8月	評価結果確定日	令和4年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

H27年より小学4年生を対象に子供も向けの認知症サポーター養成講座・福祉体験の受け入れや特別支援学級との交流の場を設けています。コロナ禍になってからもZOOMにて小学生と入居者の交流は続けています。自治会への参加、公民館主催のなかよし喫茶等にも参加し自治会の廃品回収・町内清掃にも参加しています。6年前より犬を飼い入居者様と散歩をし、町内パトロールをしながらゴミ拾いをしています。アニマルセラピーで入居者様にも役割が出来たり、心が癒されています。働き方としては子連れ出勤を取り入れたり、研修の充実に加え、OJTやOFF-JTを効果的に活用し、eランニングによる新人研修を職員の育成に積極的に取り組んでいます。コロナ感染拡大予防の為中止に致しました行事などは、コロナ感染拡大が落ち着きましたら、これまで同様実施していく予定です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふぁみりー那珂」は平成23年10月開設。小規模多機能施設と併設、2ユニットからなる。近隣に小学校・公民館があり、小学4年生を対象にこども向け認知症サポーター養成講座・福祉体験の受け入れ・特別支援学級との交流を設けている。コロナ禍の中ZOOMにて小学生と入居者との交流は続けている。自治会の廃品回収・町内清掃に利用者、職員と参加。敬老の日には、3丁目の自治会を通じ保育園児から折り紙のプレゼントをもらい、利用者からお礼の手紙を渡した。犬を飼いアニマルセラピーで入居者に役割ができたり、心が癒されている。OJT・OFF-JTを活用したり、eランニングにより職員の育成に取り組んでいる。今後、夏祭りなどの行事も実施していく予定である。代表が中心となって行政・地域との連携に積極的に関わっており、今後も地域福祉を支える存在として益々の発展が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年9月13日		

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	項目	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングの際に参加者全員で基本理念の唱和を行っている。また、その時々状況に応じて理念の見直しを行い利用者様・ご家族に安心・満足・信頼を得る様に職員一同努めています。	基本理念は玄関先、各事務所内に掲示している。ミーティングの際に全員で基本理念を唱和している。職員は理念を基に、目標を立て、個人面談の時に話し合う。管理者と職員はその理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルスの影響により自粛しているが、地域のイベントや公民館で行われている麻雀教室・体操教室などに参加し地域の方々との交流の機会を増やしている。又公民館主催のなかよし喫茶にも参加したり、社会福祉協議会のご紹介で週に一度傾聴ボランティアや折り紙ボランティアさんに訪問して頂いている。	コロナ禍の中思うような活動はできていないが、代表がZOOMIによるこども向けの認知症講座を行なっている。公民館とのかかわりも、代表が公民館に行き交流をしている。自治会に加入しており、保育園児から折り紙のプレゼントをもらい、利用者がお礼の手紙を書いたりと交流を行っている。廃品回収には利用者、職員と共に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政・自治会の方と共に認知症SOS徘徊模擬訓練を実施し、認知症の方も安心して暮らせる町づくりにつとめている。認知症サポーター養成講座・小学生にZOOMIによる子供向けの講座及び交流会を行いオレンジリングを広げる活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回のペースで開いています。コロナ禍の為令和3年5月よりZOOMIにて開催し、ご家族・社会福祉協議会・包括センター・自治会長・公民館長・市の職員・関係業者の方に、案内、意見書、議事録、活動報告などを郵送で報告している。毎回身体拘束廃止についてもご参加者のご意見や助言を頂き、常にサービス向上に活かしている。	運営推進会議はZOOMIにて開催しており、議事録、活動報告、意見書、返信用の封筒を入れ参加者及び家族全員に送付している。いただいた意見をサービス向上に活かしている。コロナ禍の中玄関の換気をしており、不審者に対応する取り組みについての意見があった。話し合いの結果、①カメラモニターをつける。②警察官立ち入り所とするなどの取り組みを行い、サービス向上に活かしている。	取り組みについての意見は書面、ファックスなどでもらい、家族からの返信は決まっ方が多いとの事。より多くの家族から意見をいただくために、電話、声かけなどを行って見たらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市の担当の方と協力し『きんしゃい博多』を立ち上げた。その声により相談や取り組みを伝えやすくなった。連絡・連携を取り合いお互いに協力関係を築けるよう努めている。	福岡市の担当の方と協力し、介護事業所と地域住民との相互連携の場である『きんしゃい博多』を代表が立ち上げた。相談、取り組みも伝えやすくなり、協力関係を築くよう努めている。介護保険の申請は郵送で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議にて、身体拘束について意見交換を行い、入居者様に自由に、閉鎖的にならない生活が送れるよう努めている。社内勉強会・外部勉強会・毎月のミーティングでも身体拘束について勉強・話し合いを行っている。	玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束廃止委員会は年2回行う。「虐待の芽チェックシート」の提出も行ってもらう。ミーティングの後に、毎回話し合い、二か月ごとに行っている運営推進会議の後にも話し合う。以前、離設があり、近隣のスーパー、こども向けの認知症講座の後にも対応についてお願いをしている。言葉かけについても、具体的に例をあげ話し合っている。	

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで勉強会を行ったり定期的なカンファレンスを行っている。職員同士でコミュニケーションをとりながら虐待の芽がないか確認合っている。年に2回「虐待の芽シート」を無記名で提出してもらい、個人面談を行い職員のメンタルにも気をつけています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内勉強会や外部研修に参加し勉強する機会を得ている。現在グループホームでは2名成年後見制度を利用している方がおり、学んだものを振り返れる機械となった。玄関に成年後見制度のパンフレットを置き多くの方に手に取ってもらうようにしている。	成年後見制度を2名の方が利用しており、司法書士と代表、親族などが対応している。職員は勉強の機会を得て、学んだことを振り返る機会になっている。玄関に成年後見制度のパンフレットを置いてある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は代表・施設長によって契約を行い、契約時に細かく説明を行い、理解・納得を頂ける様努めている。改定事も書面にて説明を行い、入居語も疑問点などあればその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見BOXを用意し、運営推進会議事にご意見書を郵送し、意見の言いやすい環境を整えている。ご家族が来苑された際にはご要望など伺っている。来苑いただけないご家族には電話で伺うこともある。入居者様にも会話から要望を拾い上げている。普段からご家族様とコミュニケーションをとり意見や要望を話しやすいように努めている。	運営推進会議時には、議事録と共に意見書を郵送。家族の訪問は予約制にし、10～15分程度、ガラス越し又はアクリル板を利用して行ってもらい、その際に要望、意見などを伺う。訪問が難しい家族にはテレビ電話、手紙などで要望、意見を伺っている。玄関には意見箱を用意している。普段から家族とコミュニケーションを取り、意見、要望を伺いやすいように努めている。	玄関に意見箱を設置してあるが、意見は入っていないとの事。意見箱への記入用紙一筆便などをファミリー通信に同封し、来訪時に意見箱に入れてもらうことで、より多くの要望、意見の回収率を高めてみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表・施設長はミーティングに参加し、現場職員の意見や提案を出し合い、討議している。ミーティングに参加できなかった職員からも、後日意見を聞くなどしている。職員が意見や提案を話しやすい環境を整える事に努めている。	ミーティング時に意見、提案を出しあい、検討し、反映させてもらっている。施設長との個人面談もあり、そこでも意見を聞いてもらう。休みの希望・時間の変更などの相談にも乗ってもらう。入社間もない時は頻繁に面談を行ってくれ、モチベーションが上がる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長を通し代表に個々の職員の実績や努力、勤務状況を伝えて実績把握に努めている。又、半年に1度個々職員が目標を定め向上心に繋がる様に努めている。1年に1回個人面談を行い、状況に応じて都度面談を行い、新人職員にかんしては頻繁に面談を行いモチベーションを上げる様に努め、その都度代表に報告・相談している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の職員が働いており、活動の場を設けている。外国の技能実習生も勤務しており、安心して働ける環境作りに配慮している。又採用された職員は経験の有・無に問わず、それぞれの個性を活かし、これまでの社会経験を活かせる様な現場環境を作っている。現在は25歳から78歳までの職員がそれぞれの個性を活かし働いている。子連れ出勤制度も働きやすい環境作りに取り組んでいる	幅広い年齢層の職員がいる。入社時にはeランニングで認知症の基礎講座を受ける。職員はコミュニケーション・認知症の人への対応・レクリエーション・手作業など得意な分野を活かし、業務に取り組んでいる。OJT・OFF-JTの活用もあり、自己研鑽に励んでいる。コロナ以前には子連れ出勤制度もあり、働きやすい環境づくりに取り組んでいた。	

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者が自分らしく過ごせるように取り組んでいる。ミーティングなどで日々の支援を振り返り、人権教育につなげた話し合いを行っている。1年に1度人権学習を社内勉強会で行っている。	毎年の研修計画の中で担当者が研修の資料を作り、勉強会を行う。新入社員には代表が、外部機関より借りたDVDで勉強会を行ったり、ユマニチュードケア技法を行っている。利用者の希望がある時は、施設より相手先に電話をかける。友人、家族に葉書、年賀状などを出し交流を図っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ミーティング事に行う勉強会を通じ、職員のケアの力量を確認しトレーニングを行っている。研修に加え、OJT・OFF-JTを効果的に活用し、職員の育成に積極的に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別事業所の見学・訪問にも対応し交流を深めるよう努めている。『きんしゃい博多』を立ち上げ世話人を行い、積極的に事業所間の交流を行っている。県GH協議会、認知症指導者、ケアマネット博多、ライフサポートワーカー(福岡市)に所属		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を大切にし、ご本人が何を望んでおられるのか、不安がないかなどを気付けるよう、職員間でも周知し解決できるよう努めている。ご本人との信頼関係を築く様努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との会話を大切にし、会話の中からご家族が困っている事、環境・信頼関係を築く様努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との会話を大切にし、会話の中からご家族が困っている事、環境・信頼関係を築く様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人役割や得意なことをして頂き、無理強いすること無く、共に生活を築いて頂けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑できない家族には近況報告を手紙・写真にてお知らせしたり、時々電話をかけご本人と話して頂いたりしている。		

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内や小学校の運動会に行き、顔馴染みの方とお話したり、近所のお祭りに行き、昔からののお友達を尋ねお話をされ毎年楽しみされています。今後も関係が途切れない用に支援して参ります。	コロナ禍の中、祭りなどには行っていない。犬の散歩時に近隣の方と挨拶をする。家族とは短時間。ガラス越しなどでコミュニケーションを取る。訪問できない家族には手紙、写真で近況報告をしたり、電話で本人と話してもらう。事業所内で、パズル・将棋等を気の合う仲間と行っている。利用者同士で、できる世話をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	プライバシーも大事にし、全員で外食・外出に行っていたが、コロナ禍の為苑内でカラオケ・パズル・将棋とそれぞれ好きな事を気の合う仲間と行っている。入居者様同士お世話をしたりしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても何かあった際には相談して頂くように声かけをしている。以前はお母さんが入居されていて、現在は娘様が入居されている。以前入居されていた娘様からの相談で併設している小規模多機能にお姑様が利用している。今後も相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の思いや意向を確認し、確認した意向はケアプランへ反映している。職員が日頃会話や表情の中で得た情報を記録に残し情報の共有をしている。	初期訪問は、管理者が対応する。隣接の小規模多機能施設から入居される方もいる。利用者、家族などからこれまでの生活歴、趣味、思い、暮らし方の希望を聞き取る。意思を伝えることが難しい方には、表情、仕草などから思いをくみ取る。職員は利用者を1~2名受け持っている。把握した情報は職員全員で共有し、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にもセンター方式の一部分を家族に記入してもらい。利用車の情報についてはご本人とご家族から話を聞いて情報を収集している。入居後にも生活の中での会話や暮らしぶりから情報を得て、情報の共有をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活習慣、日々の状態変化を観察し、記録に残し定期的にカンファレンスを実施している。「~したい」の実現を目指している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向も踏まえ介護計画を作成している。ご本人にとって何が重要かを職員間で意見を出し合い介護計画を作成している。ご本人やご家族の希望に添える様に努めます。	職員全員で情報を共有し課題を見つけ出し話し合う、実施記録とケアプランは紐づいており、変化を見逃さないように、目標の達成状況などモニタリングを行う。担当者会議では、本人、家族から意見・要望を聞き、多職種からも意見をもらう。それぞれの意見、アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアについては、申し送りや記録にてスタッフ間で共有し、より良い支援に結びつけている。また、介護計画は入居者様の様子をスタッフ間で共有し意見交換しながら見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防の為、ご家族の面会を控えているがテレビ電話や、お手紙で情報を共有し入居者様との交流を大切にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前までは地域ボランティアにより傾聴や折り紙サービスなど来所して頂いていたが、コロナ感染予防対策で現在は来所を控えている。今年は地域の小学生とリモート交流会を実施致しました。配達して下さる地域の八百屋・肉屋さんとの何気ない会話などの交流を大切にしている。自治会イベントにも参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の要望により、かかりつけ医を変更される方もおられ随時連携を図っている。定期的な往診以外に異変があった時は専門病院を受診し医療連携に努めている。	それぞれの希望のかかりつけ医を継続されたり、提携医を利用されている。24時間対応ができる。週1回の訪問看護との連携し、日々の介護の中で指導を受けながら対応している。他科受診の際は家族又は職員が対応。異変があった時は専門病院を受診し医療連携に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護との連携、又日々の介護の中で適切な処置など、指導を受けながら対処し連携している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前後に情報をお伝えし、かかりつけ医からも診療情報提供書や看護サマリーなどで情報のやり取りをしている。入院後も定期的にソーシャルワーカーより状況を伺いご家族にもお伝え意見を伺いながら早期に退院ができる様、心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化された方については早期に急変時対応の事前確認書をご家族に提示し同意を得ています。医師からの病状説明を行って頂き、ご家族に納得して頂ける支援を心がけています。又意思表示の出来る入居者様にはリビングウィルを記入して頂き、終末期どういった支援を望まれるかなど意見を伺っています。現在重度化されていない方についても急変時対応の事前確認書をご家族に提示し、同意書を頂いています。本来であれば対面にて同意を得たい所ですが、ご家族遠方におられる方には、お電話での説明、郵送にてご家族との連携に取り組んでいます。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族と話し合いを行い同意書を頂いている。、終末期にどのような支援を望まれるか意見を伺い、事業所のできることを十分に説明し方針を共有している。職員にはより良いケアを行うためターミナルケアの勉強会を行い、ターミナルケアにかかわった職員も数名おり、チームで支援に取り組んでいる。	

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成・勉強会(ミーティング)での職員への周知、過去の経験(対応・実践)を教え、冷静に対応・判断・実践出来る様に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しマニュアルの作成、説明を行い実践が行える様に努めている。*現在コロナ感染予防の為、リモートによる運営推進会議を開催しており地域への公開は出来ない。水害の際自治会が駆けつけてくださる取り決めはできている。	年2回の避難訓練の実施し、マニュアルの作成、説明を行い職員には理解を深めてもらっている。消火器、避難路の確保などの設備点検は行っている。ご飯、おかずなど非常用食品、トイレなど備品の準備を行っている。現在コロナ禍のなか地域への貢献は思うようにできていないが、避難場所への提供はあり又水害の際、自治会が駆けつけてくれる取り決めはできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あだ名で呼ばない、部屋に入るときには許可を得る等、常に入居者様の気持ちを考え、尊厳と敬う気持ちを持って声かけを行う様に努めている。言葉使いのみならず、表情や態度にも気を配るように努めている。	接遇マナーの研修を行い言葉使い、コミュニケーション技術などを学んでいる。羞恥心・個人情報・人権意識の徹底を行っている。写真などの同意ももらっている。名前で呼ぶほうが、反応される方には、家族の了解の上名前でも呼ぶなど臨機応変にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の嗜好調査をしたり、会話や生活の中で何を希望されているのかを察知し、ご本人様が意思決定して頂ける様努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の様子や体調に配慮し、出来る限り、ご本人様のペースで生活できる要に、距離感を大切にするとつめている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、ご本人が選択し望む身だしなみをして頂く。さり気ない声かけで整容に気を配って頂ける要に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを理解し、食材や適切な量の配分に努めている。 *現在コロナ感染予防の為、パーティションを取付入居者様同士はお話しながら召し上がるがコロナ禍のため職員は同席では食べていない。配膳、洗い物等、一緒にできるものはして頂いている。	料理の担当が、冷蔵庫内の材料を見て献立をたて調理している。材料は職員が買い物に行ったり、地域の八百屋、肉屋さんから配達があり、何気ない会話の交流を大切にしている。誕生日には本人の好きなものを作る。配膳、洗い物など一緒にできることはしてもらっている。食事は彩がよく、栄養バランスが取れており、食事時間が楽しみになっている。	

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者に合った量を提供している。好きな物・嫌いな物も入居者に合わせている。水分量は最低1日1リットルは摂れる様に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。自分で出来る方は見守り、介助が必要な方はお手伝いしている。入床前は義歯はポリドントにて洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄表を作り、声かけをしてトイレ誘導をしている。出来る限りトイレで排泄をして頂けるように努める。	チェック表は食事・水分・バイタルなど一枚にまとめてある。水分補給にはこまめに対応している。食前、食後にトイレに声かけ、誘導することでパッド交換の回数が減り、下肢筋力の低下予防にもなった。気が付いたことは申し送りノートに記入し、ミーティング時に全員で話し合い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬に頼らない様に、牛乳やヨーグルト、野菜などで便秘予防に努めている。排便のパターンを把握しトイレ誘導をしている。水分補給なども、こまめに提供し便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿う様に入浴剤を入れたり、入浴中の会話などで楽しく入浴して頂ける様に努めている。『明るい時に入らない』と言われる入居者様には窓に日よけシートを貼り、気分良く入浴して頂ける様に工夫しています。	回数、曜日は決めていないが、最低週2回は入浴してもらうようにしている。夜間対応はできないが、窓を暗くすることで気分を変えている。入浴時はコミュニケーション・健康管理の場として大事にしており、気が付いたことは、看護師、医師に報告、相談をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は好きな時間にお昼寝やリビングにてウトウトされている。夜はゆっくり寝れる様に夜勤者は静かに巡視を行う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方された薬を把握し、誤薬予防で名前・日付・回数・朝・昼・夕・眠前薬を確認し、ダブルチェックをする様に努めている。何かあった際には医師、薬剤師へ連絡し指示を仰ぐ。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様との会話の中から好きな食べ物や今食べたい物などを聞きメニューに取り入れている。洗濯物干しやたたみ食器洗い等は役割を決め喜びをもって頂ける様に努めている。それぞれの生活歴を把握し日常生活の中で役割をもって頂き自信をもって頂ける様に努めている。		

R4.9自己・外部評価票(グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、現在外出や外食を控えているが、感染予防しながら施設近辺を短時間散歩したり、一緒にごみ捨てに同行してもらい、地域の方とも挨拶などで交流を図っている。	コロナ禍以前は初詣・季節の花見・外食行事などを行っていた。現在思うような外出はできないが、クリスマス飾りを見にドライブに行った。近隣を犬と一緒に散歩したり、ごみ捨てに同行してもらい、地域の方と挨拶などで交流をしている。調査当日には近隣の小学校の4年生が外のウッドデッキから元気コールをしてくれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の許可を頂き、入居者様ご自分の財布を持ち、週一回のパン移動販売でお小遣いを所持して頂き購入してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話したいと言われた際は施設より相手先に電話をかけ居室などでゆっくりお話できる時間を作っている。又、ご友人やご家族へはがきを出され交流も図られている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保つ様心がけている。入居者様のスナップ写真等を飾り思い出を振り返ったりして会話を楽しんでいる。又季節ごとの行事を大切にし、それにあった飾りつけ等を一緒に行い季節味わえる様な関わりを大切にしている。トイレも排泄臭を防ぐ為に使用後のパットは新聞紙で包み処分し防臭対策に努めている。コロナ感染予防の為、定期的に空気の入替えを行っている。空調も入居者様の体感に合わせた設定温度を心掛けている。	ウッドデッキは隣接する小規模多機能施設とつながっており、季節の良いときはステキな空間となっている。リビングは十分な広さがあり、それぞれの場所で思い思いに過ごしている。手作業の得意な職員がおり、素晴らしい飾り物が壁に掛けられている。食事時には柔らかな音楽が流れ、食事が一層美味しいものになっている。トマト・胡瓜・ピーマンなどを一緒に収穫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は関係性を重視した配置にしている。又、一人で読書をしたり塗り絵等を楽しんで頂ける様な空間作りに配慮している。ソファでゆっくり好きなDVDやテレビを楽しめる空間も大切にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参された仏壇やなじみのタンス、又その人の歴史が見れる写真を飾り安心できる環境を作っている。私の部屋という自覚が持てる環境作りに配慮し、入居者様同士が行き来できて自分の部屋にお招きする雰囲気も大切にしている。	居室のドアには本人、家族の許可を得て表札をかけている。ベッド・カーテンは備え付けてあり、戸口に柵があり、室内がきれいに整っている。ゆっくりとした空間もあり、明るく、馴染みの品物を側に置き、安らぎの環境が作られている。ベッド上で寝返りが困難な方には、2時間おきに体位交換する。居室に左右のカードが掲げられ、介護者誰もが、わかるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には大きな文字で分かりやすい様に表示している。居室のドアにも本人とご家族の許可を得て表札を付けている。居室に戻られる際、表札を確認されている。共有空間とトイレや浴室には手すりを設置し、自力での歩行や立ち上がり時の支えとして安全かつ自立した生活が送れる様工夫している。		